

# 副詞の統辞論的修飾と感嘆詞の談話修飾

徐 泰 龍 Seo Tae'ryong ソ・テリョン (東国 Dong'gug トングク大学)

## 1. 序論

膠着語が統合することができない単語の中で、副詞と感嘆詞を分類することができる基準を究明するのが、本稿の目的である。統辞論的修飾<sup>1)</sup>機能がある副詞とは異なり、感嘆詞は独立語の機能があるものとして記述されてきた。

まず、副詞と関連した問題である。副詞は統辞論的修飾対象と範囲を明らかにする必要がある。第1に、後に続く表現に修飾対象がない場合であり、第2に、語尾句を修飾する場合である。

統辞論的修飾機能を見せる副詞 ‘솔직히(率直に)’ は、後に続く表現についての話者の嘘や隠し事がないことをあらわす場合に、直接修飾する対象を探すのが難しい。

(1) 가. [솔직히] 나는 선생님이 그림다.

나. 나는 선생님께 사실을 [솔직히 고백하]었다.

다. 너도 선생님께 사실을 [솔직히 밝히]어라.

라. 아내는 남편에게 사실을 [솔직히 인정하]더라.

(1 가) は、‘솔직히’ の修飾対象を後に続く表現において探すことが難しいが、(1 나, 다, 라) は後に続く表現の動詞句が修飾対象である。(1 가) は後に続く表現についての話者の嘘や隠し事がないことを表す場合であり、‘말해서(言って)’ や ‘말하면(言えば)’ 程度の表現をしなかったものである。また、(1 나) は話者の嘘や隠し事がないことをあらわすが、後に続く表現に修飾対象である ‘고백하(告白す)’ がある。(1 다, 라) のように、聴者や第三者が主体である場合には、‘솔직히’ が動詞句を修飾することが明らかにわかる。(1 가) だけが、‘솔직히’ が、後に続く表現にない話者の嘘や隠し事がないことをあらわすが、別の意味をあらわすことはないので、(1 나, 다, 라) と同じ副詞である。‘솔직히’ と類似した例として、‘다행히(幸いに)’、‘불행히(不幸に)’ がある。

副詞の中で語尾と関係を見せる(2)の ‘아무리(どんなに)’、‘제발(どうか)’ のような例を ‘呼応副詞’ と<sup>2)</sup>呼ぶ場合がある。

(2) 가. [[아무리], [선생님을 찾]아도] 찾을 수 없었다.

나. [[제발], [책 좀 읽]어라.]

(2)は、副詞と語尾が関係を見せる例であるが、(2가) は連結語尾が、(2나) は終結語尾が副詞と関係を見せる。(2)の‘아무리’, ‘제발’を呼応副詞としたとき、後に続く表現の語尾や語尾句との関係は何であろうか。

(2)と関連して、語尾や語尾句は、修飾対象になりえないのだろうか。一般的に副詞は、統辞論的修飾機能を見せるが、(2)の‘아무리’や‘제발’は、統辞論的修飾機能を持つものとして記述することができないのだろうか。呼応と統辞論的修飾の関係は何であろうか。

次は、感嘆詞と関連した問題である。第1に、感嘆詞の中で、終結語尾が統合され形成された感嘆詞や、返答に用いられる感嘆詞は、後に続く表現に聴者待遇法の語尾を備えて使用される場合が多い。

(3) 가. [여보세요], [조용히 하]세요.

나. [네], [곧 떠나]겠습니다.

(3)の感嘆詞‘여보세요(もしもし)’, ‘네(はい)’は、後に続く表現の終結語尾‘-세요’, ‘-습니다’と関係を見せる。(2)の副詞よりも(3)の感嘆詞が語尾と見せる関係がより具体的で直接的である。この場合、統辞論的修飾であると言うのは難しく、感嘆詞に語彙化した終結語尾と、後に続く表現の終結語尾が‘一致’すると言えるのだろうか。

(2)は副詞と語尾の‘呼応’、(3)は感嘆詞と語尾の‘一致’だという主張が可能なのか。‘呼応’、‘一致’、‘修飾’の関係は何だろうか。

第2に、感嘆詞が‘独立語機能’を持つとする主張は、何から‘独立’というのだろうか。(3)の感嘆詞はすべてものから‘独立’していると言うことができない。

(4) 가. [어머], 붕어가 팔뚝보다도 크네.

나. [자], 이제 출발한다.

(4)の感嘆詞‘어머(まあ)’, ‘자(さあ)’は、後に続く表現と統辞論的關係を見せない。いわば‘独立語’の機能とは、統辞論的‘独立’であるものと考えられはするが、(3)と(4)において感嘆詞が共通的に見せる特徴は探するのが難しい。

感嘆詞を談話のための単語であるとしたが(徐泰龍 1999: 23-42) 談話の何のための単語であるのか。

## 2. 副詞の修飾対象と範囲

### 2.1. 副詞は様々な種類の成分を修飾する

名詞や名詞句だけ修飾する冠形詞と異なり、副詞は修飾対象と範囲が多様である。

(5)の ‘아주(とても)’や ‘땡그렁(からんと)’のように、同一の単語が動詞句ばかりでなく名詞句を修飾する場合にも冠形詞として分類せず、副詞として分類した次に ‘体言修飾副詞’ などと呼ぶことも、副詞は様々な種類の成分を修飾することができるからである。しかし、副詞が修飾できる対象と範囲を明らかにしなければ、感嘆詞と区別することが難しくなる。

- (5) 가. 아주 + /가-/살-/좋-/크-/새-/빌어먹을/많이/슬피/부자/  
나. 땡그렁 + /울리-/풍경 소리/

副詞が修飾する対象として、成分副詞と文章副詞についての論議が最近まで反復されているが、‘文章’は正確な修飾対象を明示できない。文章副詞において、‘文章’は‘終結語尾句(김선효 Gim Seonhyo キム・ソンヒョ 2005:46-49, 신서인 Sin Seoin シン・ソイン 2011:209-218)’であるので、文章副詞とは語尾句を修飾する副詞である。語尾句も成分の1つである。

副詞は位置によって修飾対象や修飾範囲を異にすることができる。副詞が動詞句や語尾句の中にある様々な種類の成分を修飾するので、副詞は統辞論的修飾をする要素であるが、その範囲が問題である。動詞と動詞句、冠形詞や副詞とこれらが核である修飾詞句、名詞と名詞句などは、副詞の後に続く表現にある成分、すなわち文章の中の成分である。副詞はその修飾対象によって下位範疇を分かちもするが、名詞句修飾副詞、修飾詞句修飾副詞、動詞句修飾副詞は修飾対象が明らかである一方、‘呼応副詞’は修飾対象が曖昧模糊である。

同一の副詞が(5)のように様々な種類の成分を修飾することができる。名詞句修飾副詞が名詞句だけ修飾するとすれば、これらは冠形詞であって、副詞とする理由がない。名詞句以外にも他の成分を修飾するので、副詞として認定するのである。冠形詞や副詞、すなわち修飾詞句だけ修飾する副詞も探すのが難しい。修飾詞句を修飾する副詞は、動詞句も修飾する。動詞句修飾副詞は、修飾対象が‘動詞’、‘修飾詞+動詞’、‘名詞句+動詞’、‘語尾句+動詞’など多様である。‘文章’という曖昧模糊な名称を捨てるとすれば、‘文章副詞’とは、後に続く表現の語尾句を修飾する副詞である。動詞句修飾副詞までは文章の中の成分を修飾するものであるので、統辞論的修飾機能を見せることが明らかである。文章の中の成分を修飾する単語は、統辞論的修飾をするものであるので、副詞である可能性が高い。問題は、語尾句を修飾する場合と談話を修飾する場合である。

副詞の中で、統辞論的修飾機能と談話修飾機能を共に見せる例がある。位置によって談話修飾機能を見せる場合があっても、統辞論的修飾機能を見れば副詞である。‘솔직히(率直に)’、‘다행히(幸いに)’<sup>3)</sup>、‘불행히(不幸に)’のように、文頭の位置において話者の心理や評価を表す場合に、意味が異なる同音語にならず、修飾対象と範囲だけ異なるようになれば、そ

のまま副詞である。意味が異なる同音語になれば、感嘆詞を別途に認定しなければならない。

- (6) 가. [다행히] 비가 많이 내린다.  
나. 담배를 끊으니 나도 [[다행히] 기침이 멈추는구나].  
다. 너는 이번 시험에 [[다행히] 합격하였구나].  
라. 큰 수술에도 영희는 [[다행히] 살아나겠다].
- (7) 가. [불행히] 친구는 새 사업에 실패하였다.  
나. 그녀는 아편으로 늘그막을 [[불행히] 보내]고 말았다.  
다. 이 영화는 [[불행히] 살]았던 여인의 삶을 다루고 있다.

(6-7 가)は, ‘다행히’, ‘불행히’の修飾対象を, 後に続く表現において探すが難しいが, (6 나, 다, 라)は, 後に続く表現の語尾句, (7 나, 다)は後に続く表現の動詞句が修飾対象である。(6-7 가)は, 後に続く表現についての話者の評価を表す場合である。文頭に位置しなければ, (6 나)のように話者が主体である場合や, (6 다, 라)のように聴者や第三者が主体である場合に, ‘다행히’が語尾句を修飾し, (7 나, 다)のように‘불행히’が動詞句を修飾することがわかる。(6-7 가)は, ‘다행히’, ‘불행히’が後に続く表現にない話者の評価を表すが, 他の意味を表すものではないので(6 나, 다, 라), (7 나, 다)と同じ副詞である。

신서인(2014: 104-113)には, 話者中心の‘솔직히’, 聴者中心の‘부디(どうか)’, ‘제발(なにとぞ)’, ‘아무쪼록(ぜひとも)’などと, 出来事評価の‘다행히’, ‘불행히’などが, 動詞句の範囲を抜け出し, 談話と関連があるものと論議された。‘솔직히’, ‘다행히’, ‘불행히’は文頭の位置において, 修飾対象が動詞句や語尾句を抜け出し, 話者の心理や評価を表す場合があるが, 基本的には統辞論的修飾をする機能を担当する。

副詞の中で, ‘솔직히’, ‘다행히’, ‘불행히’は位置によって談話のための機能を見せる場合があっても, 話者の心理や評価を抜け出すことが難しく, 統辞論的修飾をする場合の意味を抜け出しはしない。

## 2.2. 副詞は語尾句を修飾する

### 2.2.1. 語尾句は語尾を修飾する構造である

統辞論的に膠着語尾が核であるという論議は(徐泰龍 2006: 67-71)あるが, 意味論的に膠着語尾が核になりうるか, 明らかにする必要がある。まず, 膠着語尾は統辞論的に核であるばかりでなく, 意味論的にも核である。すなわち, 膠着語尾が修飾対象になりうる。膠着語尾は, 前に何もなければ, 統辞論的構成をなすことができないが, 前に何らかの要素があれば

ば、その要素と統辞論的に修飾関係を結ぶことになる。この修飾関係は意味によっても裏付けされなければならない。

- (8) 가. [[[높]은] 하늘]에]  
나. [[[하늘]이] 맑]다].

(8 가)において、‘높은(高い)’が‘하늘(空)’を統辞論的にも意味論的にも修飾する。だとすれば、‘높-’と‘-은’の関係において‘높-’は‘-은’を修飾できないのだろうか。‘-은’が表すことのできる意味の中で、直接構成要素として前にある‘높-’が‘-은’の意味範疇を狭めて限定する。(8 가)の‘-에(に)’は、‘하늘에(空に)’になると、‘-에’が限定する範囲が‘하늘’へと狭くなる。‘높은 하늘에(高い空に)’になると、‘-에’が限定する範囲は‘높은 하늘(高い空)’へと狭くなることになる。

(8 나)の‘-다’は、‘맑다(晴れている)’になると、‘-다’で完結することができる陳述の中で、‘맑-’を完結することになり、‘-다’が完結する意味は、‘맑-’へと範囲が狭くなり限定される。‘하늘이 맑다(空が晴れている)’になると、‘-다’が完結する意味は‘하늘이 맑-’へと範囲が狭くなり限定される。

- (9) 가. [[[[[아버지]가] 오]시]지].  
나. [[[많]이] + 만/도/야/는] 주]시겠지.

(9 가)の構造においても、‘아버지(父)’と‘가(が)’の関係、‘아버지가 오-’と‘-으시-’の関係、‘아버지가 오시-’と‘-지’の関係も統辞論的に修飾関係である。統辞論的に直接構成要素を成す2つの成分において、前に来る要素が後ろに来る要素を修飾することは、自然な構造である。

上のような関係を認定すれば、当然、語尾‘-으시-’、‘-지’は、前にある直接構成要素の修飾を受けると言うことができる。比較的意味が明らかな(9 가)の‘-으시-’を例として調べてみよう。

前に他の表現がなく、‘오시-’になれば、‘-으시-’が高めることができる陳述の中で、‘오-’を高めることになり、‘-으시-’が高める意味は、‘오-’へと範囲が狭くなり限定される。‘아버지가 오시-’になれば‘-으시-’が高める意味は、‘아버지가 오-’へと範囲が狭くなり限定される。(9 가)において、‘가’によって‘아버지’と‘-으시-’は直接構成要素の関係にあるわけではないので、統辞論的に修飾関係を成すことができない。(9 가)において統辞論的に‘아버지’は成分として‘-으시-’語尾句の支配を受ける。‘아버지’と‘-으시-’の関係を一致や呼応として記述することは、統辞論的修飾とは直接関連がない問題である。(9 나)は、一部の副詞も一部の膠着語尾を直接修飾することができるということを示している。



(8-9)のように、韓国語において膠着語尾は、統辞論的にはもちろん意味論的にも修飾を受けることができる核である。副詞と語尾が関係を見せると‘呼応’，(9 ㄱ)のように‘아버지’と‘-으시-’が関係を見せると‘一致’であるとしたことになった理由を少し調べてみよう。この‘呼応’は、その背景が言語学の‘一致’と見られるが、‘呼応(concord)’や‘일치(agreement)’であるというのが難しい理由は、以下の(10)の通りである。

#### (10) 韓国語における‘一致’論議の問題点

ㄱ.核が前に来る印欧語においては、核であり必須成分である主語に合わせて現れる動詞活用形の関係を、人称、性、数の一致と言った。その後、統辞論的に一致素とそれが支配する名詞句が意味資質を共有すれば一致であるとするが、反対に核が後ろに来る韓国語において、核である語尾と共有する意味資質を名詞句において探さなくてはならない。

ㄴ.中世韓国語や慶尚道方言において、未定詞に焦点が置かれた疑問詞の[+WH]資質と説明疑問語尾‘-고’，‘-노’の[+WH]資質の一致現象と、判定疑問文の[-WH]資質と判定疑問語尾‘-가’，‘-나’の[-WH]資質の一致現象を記述したことがあるが(서정목 Seo Jeongmog ソ・ジョンモク 1987:302-376)疑問詞に条件がついている。‘-노’，‘-나’は、さらに分析される可能性があり、疑問文以外にも多様な分布を見せる語尾‘-고’の意味においては、むしろ‘未定’と関連した資質が確認される。

ㄷ.中世韓国語の主語一致素として、[+尊敬，-1 人称]の‘-으시-’と[-尊敬，+1 人称]の‘-오-’，目的語一致素として[+尊敬]の‘-습-’を記述したことがあるが(유동석 Yu Dongseog ユ・ドンソク 1994: 229-245)，‘-습-’は[+謙讓]の資質を持つ要素である可能性が高い。韓国語において‘1 人称’は語尾の記述において‘話者’であり、[話者]と[尊敬]を一致資質として認定すれば、一致の論議は感嘆詞にも適用されうる。‘-으시-’，‘-오-’，‘-습-’は韓国語の統辞論的構成において必須的な語末語尾ではない。韓国語において統辞論的に必須的な語末語尾と名詞句において、意味資質の共有現象をまず確認し記述できなければ、韓国語において統辞論的一致についての論議は、部分的なものになってしまう。

ㄹ.上の議論が可能であるとしたとしても、統辞論的に韓国語の大部分の副詞は、随意的な成分であり核ではない反面、表現の終わりに来る語尾は必須成分であり核である。一部の副詞のための呼応や一致のかわりに、すべての副詞は一般的な修飾機能を持つものとして記述することができる。

#### 2.2.2. 副詞は語尾句を修飾することができる

膠着語尾や語尾句が修飾対象になりうると認識すれば、副詞と語尾の呼応として記述していた例は、単純に統辞論的修飾として記述することができる。

先語末語尾‘-으시-’, ‘-었-’と関連を見せる‘몸소(自ら)’や‘친히(自ら)’, ‘아까(さっき)’や‘이미(すでに)’は, (11)のように動詞句を修飾したり, (12)のように語尾句を修飾する.

- (11) 가. 작은 일부터 [[몸소] 실천하]는 자세가 중요하다.  
나. 황제는 [[친히] 군대를 거느리]고 동생과 오랑캐 정벌에 나섰다.  
다. 동생이 [[아까] 밥을 먹]고 지금 또 먹네.  
라. [[이미] 동생은 밥을 먹고 있]어./ [[이미] 동생은 밥을 먹기 시작하]니다.
- (12) 가. [[몸소] 선생님께서 발표를 하시]겠습니까?  
나. [할머니는 [[친히] 손녀딸의 머리를 빗]아 주시]었다.  
다. [[아까] 동생은 밥을 먹]었다.  
라. [[이미] 동생은 밥을 먹]었다.

(11)において[ ]の中の副詞は動詞句を修飾する副詞であり, (12)において[ ]の副詞は‘呼応副詞’であるとするのは, 一貫性がない. (11)は修飾対象が動詞句であり, (12)は修飾対象が語尾句である.

次の(13)のように, 連結語尾と関係を見せる‘설령(仮に)’, ‘비록(たとえ)’, ‘아무리(どんなに)’などが含まれた語尾句は, 統辞論的に後に続く表現について副詞の特性を見せるのが常であるので, これらの副詞が語尾句を修飾することは, 統辞論的修飾である.

- (13) 가. [[설령] 비가 와도/오더라도] 여행은 내일 떠나자.  
나. [[비록] 하느님이 와도/오더라도] 살리지 못한다.  
다. [[아무리] 의사가 수술을 열심히 해도/하더라도] 말기 암 환자를 살리기는 어렵다.

(13)は[ ]の中の副詞が後に続く表現の連結語尾と関係を見せる例である. この中で, 感嘆詞と通用されるという‘아무리’を詳しく調べてみよう.

(14) 「副詞」① 程度が非常に甚だしいこと表す言葉. ② たとえそうだとしても.

- (15) 가. 공부를 [[아무리] 열심히 해도] 성적이 오르지 않는다.  
나. 그는 [[아무리] 돈이 많아도] 쓸 줄을 모른다.  
(16) 가. [[아무리] 내가 이런 장사를 하고 있어도] 양심을 판 일은 없었다.  
나. 그가 [[아무리] 집을 팔아먹었다 하더라도] 그렇게 박대할 일은 아니었다.

‘아무리’は《標準》に副詞と通用されるという感嘆詞目録に入っているものであり, (14)が副詞の意味説明であり, (15-16)がその例文である. (15)は後に続く動詞句に程度表現がある場合であり, (16)は程度表現がない場合である. ① ‘程度が甚だしいこと表す言葉.’ と

いう意味説明は, ‘あらゆる手段と方法で’ や ‘非常に極端に’ を表すものであり, 程度表現と関係を結び, 語尾とも関係を表す. ② ‘たとえそうだとしても’ という意味説明は, ‘そうだ’ が後の表現を代用したものだとするれば, 同語反復であるので間違っただけである. ‘비록(たとえ)’ がむしろ例文に代置される可能性が高いのに, 例文の動詞句には程度を表す表現を探すのが難しい. ただ, ‘-아도’, ‘-더라도’ と関係が認識されるだけである.

‘아무리’が程度を表す表現を修飾するという記述は(김경훈 Gim Gyeonghun キム・ギョンフン 1997: 169-170, 채희락 Chae Heui'rag チェ・ヒラク 2004: 192-193), 副詞の修飾対象が動詞句の中の成分であるという先入観が作用したものと思われる. ‘아무리’の次に ‘열심히 한다(熱心にする)’, ‘많고(多く)’, ‘적어(少なく)’, ‘높고(高く)’, ‘낮아(低く)’などの単純な程度表現が不可能であり, (15-16)のように‘아무리’の後に続く表現に‘-아도’, ‘-더라도’などの譲歩を表す語尾が必ず現れなくてはならない現象を見ると, ‘아무리’は程度表現を修飾するのではなく, ‘-아도’, ‘-더라도’などの譲歩を表す語尾句を修飾するものである.

副詞として設定した‘아무리’は, 譲歩を表す語尾が後になければならないので, これらの語尾で終わった語尾句を修飾するものである. ‘아무리’は修飾対象が動詞句ではないという点の特異であるが, 後に続く表現の語尾句を修飾することは明らかである.

- (17) 가. 「感嘆詞」ある状況が決してそのようなはずがないという意味で用いる言葉. 《金星》  
 나. 「感嘆詞」決してそのようなはずがないという意味で言う言葉. 《標準》  
 다. 「感嘆詞」あることに対して決してそのようなはずがないという意味で否定するとき言う言葉. 《高麗》
- (18) 가. [아무리], 그가 그런 말을 했을까. 《金星》  
 나. [아무리], 죽은 사람이 다시 살아날까. 《標準》  
 다. [아무리], 부모가 자식에게 그랬겠어요? 《高麗》
- (19) 가. [아무리=그가 그런 말을 했을 리가 없다.], 그가 그런 말을 했을까? 《金星》  
 나. [아무리=죽은 사람이 다시 살아날 리가 없다.], 죽은 사람이 다시 살아날까. 《標準》

(18)の‘아무리(まさか)’は, 後に続く表現において修飾対象を探すことが難しい. 統辞論的修飾対象を探すことが難しく, 意味説明も(17)のように異なっており, 国語辞典に感嘆詞として認定しており, 副詞と感嘆詞の通用とする例である. しかし, (17)の諸辞典が反復するおかしな意味説明さえも, 統辞論的關係を示しているのである. ‘そのような’は後の言葉を表すものであり, (18 가)は(19 가)のように“彼がそんな言葉を言ったはずがない.”という意味であり, (18 나)は(19 나)のように“死んだ人が再び生き返るはずがない.”という意



味であると言うのである。すなわち，“後ろの言葉が成し遂げられるはずがない。”が‘아무리’の意味であるというのであるが，おかしい。(19)のようにまず断定して，後に疑問を連結する結果になるからである。例文は異なるが，《高麗》も全く同じくおかしい。

(20) 国語辞典の‘아무리’の品詞<sup>4)</sup>

	《標準》	《朝鮮》	《ソウル》	《金星》	《延世》	《高麗》
아무리	副詞 感嘆詞通用	副詞	副詞	副詞 感嘆詞通用	副詞	副詞 感嘆詞通用
					感嘆詞	

(17 ㄱ)の《金星》において，感嘆詞として認定した以後，《標準》，《高麗》も感嘆詞として認定している ‘아무리’は，そのままコピーするように写した感嘆詞の意味説明がおかしく，例文もおかしい。《金星》の感嘆詞の例文には，‘아무리 바빠도 바늘허리 매어 쓰지는 못한다.(どんなに忙しくても針の真ん中に結んで使うことはできない[どんなに忙しくても必要なことは省くことはできない])’，‘아무리 쫓겨도 신발 벗고 가라.(どんなに追われても履物を脱いで行くものか[どんなに追われている立場であっても体面を整えるべきものは整えなければならない])’という例文がさらにあるが，これらは‘-아도’で終わる語尾句を修飾するものである。感嘆詞を別途の表題語として収録した《延世》も，意味説明と例文がおかしいことは，大きく違いない。

‘아무리’を調べてみた結果，後に続く表現に修飾したり関係を表す成分がある場合は副詞として分類し，後に続く表現に修飾したり関係を表す成分を探すことができない場合は感嘆詞として分類している。しかし，独立語の機能を見せる例もなく，文章の後に用いられる例もない‘아무리’を感嘆詞として認定することは難しい。

副詞の中で，(11-13)とともに以下の(21-22)も，副詞と語尾が関係を見せるものとして論議された例である。終結語尾の中で，主に命令文語尾と関係を見せる‘부디’，‘제발’，‘아무쪼록’は，聴者や状況についての話者の期待を表す。これらは，(21)のように‘바라-’，‘기원하-’，‘-고 싶-’という動詞句を修飾する場合があり，(22)のように命令文語尾とも関係を表す。

- (21) 가. [[[부디] 성공하기 바라] + ㄴ다./네./오./습니다.]  
 나. [[[제발] 무사하기를 기원하] + ㄴ다./네./오./습니다.]  
 다. [[[아무쪼록] 빨리 그 자리를 벗어나고 싶] + 다./네./소./습니다.]
- (22) 가. [[부디] 책을 많이 읽어라./읽으십시오.]  
 나. [[제발] 건강하고 즐겁게 지내라./지내십시오.]  
 다. [[아무쪼록] 몸조심하고 잘 다녀오너라./다녀오십시오.]

同一の副詞が(21)においては動詞句を修飾し、(22)においては語尾と‘呼応’するという記述は一貫性がない。(21)が動詞句を修飾する統辞論的修飾機能を見せるものであるとすれば、(22)は語尾句を修飾する統辞論的修飾機能を見せるものである。同一の副詞が動詞句を修飾し語尾句を修飾するのである。強いて‘呼応副詞’であるとしなければならない理由がない。これらは、語尾と呼応する副詞ではなく、語尾句を統辞論的に修飾する副詞である。

副詞は、統辞論的に必須成分ではない。(11-13)と(21-22)において、[ ]内の副詞はすべて文頭の位置にあるが、必須成分ではない。[ ]内の副詞は必須的ではないので、実現しなくてもあとに続く語尾句は1つの統辞論的な構成を成す。[ ]内の副詞とその構成の後ろにある語尾が結ぶ関係は必須的なものではない。すなわち、[ ]内の副詞が後ろにある語尾を必須的に要求するわけでもなく、後ろにある語尾が[ ]内の副詞を必須的に要求するわけでもない。

一部の副詞と語尾の関係を‘呼応’として<sup>9)</sup>記述すれば、副詞の一般的な修飾機能とは違いを見せることになり、例外的なものになってしまう。金京勳 Gim Gyeonghun キム・ギョンフン(1996: 60-72)と김경훈(1997: 159-178), 임유중 Im Yujong イム・ユジョン(1999: 136-210)においてすでに提示したとおり、副詞が語尾句全体を修飾するものとして記述することができる。(8-9)において確認したように、語尾が修飾対象になりうるのに、語尾句が修飾対象になりえない理由がない。

修飾関係をあらわす時、被修飾語は核になる成分である。修飾語は被修飾語の意味範囲を狭めて限定する。被修飾語が語彙でない場合でも修飾は可能である。語彙の中で依存的な依存名詞が被修飾語になりうるように、韓国語の語尾は核であるので被修飾語になりうるし、語尾を含んだ語尾句も被修飾語になりうる。

(11-13)と(21-22)において、[ ]内の副詞があれば、後に続く語尾句の意味範囲を狭めたり限定することになる。一般的な修飾の場合と同じである。(11-13)と(21-22)の副詞が語尾句を修飾するという事は、韓国語において語尾の前に来る諸要素は、階層的に語尾を核とする統辞論的な修飾関係を表すということの意味する。結局これらの副詞は、その修飾範囲がどんなに大きくても、動詞句を含んだ語尾句までを修飾すると言うことができる。統辞論的構成である語尾句を修飾するという点においては、統辞論的修飾である。

語尾と関係を結ぶ副詞であっても、必須成分でないので、副詞の一般的な特性をそのまま持っている。修飾対象が語尾句であり、動詞句の範囲を抜け出した場合であるだけである。修飾対象である語尾句が修飾語である副詞によってその意味範囲が狭くなり限定される。

### 3. 感嘆詞の談話修飾

#### 3.1. 感嘆詞と語尾の一致可能性

一部の感嘆詞は語尾と関係を見せる。多様な語彙化の過程によって形成された感嘆詞には、聴者待遇法の語尾を備えた例がある。‘맙소사(しまった)’の場合は、聴者待遇法の語尾が機能を完全に喪失し、後に続く表現の聴者待遇法とは関連なく用いられる。しかし、《標準》に聴者待遇法と関連がある感嘆詞として収録された以下の(23)の例は、後に続く表現の語尾と関連なく用いられるのは難しい。ただし、語尾句を修飾する副詞のように、語尾句を修飾する感嘆詞を認定することができるかは疑問である。これらは独立語の機能を見せており、位置に制約がないからである。

- (23) 가. 여봐라, 여보게, 여보게나, 여보시게, 여보, 여보시오, 여봐, 여봐요, 여보세요.  
 나. 오냐, 응, 으응, 네.  
 다. 아니, 아니야, 아니요.  
 라. 였다, 였네, 였소, 였습니다.  
 마. 글썄, 글썄다, 글썄올시다, 글썄요.  
 바. 아서, 아서라.

近くにいる人を呼ぶ(23 가)は、命令文語尾だけを統合し、語彙化を認定するしかないが、規則的な動詞‘여보-’だけが語彙化したものだとしなければならぬくらいに、全ての命令文語尾はもちろん、‘-으시-’によって聴者についての待遇を調節する形式をおしなべて備えている。(23)は大部分、聴者待遇法が許容する範囲が制限を受ける。特に、(23 가)は後に続く表現の終結語尾が同一の等級であったり、許容可能な等級の語尾が用いられる。(23 가)の感嘆詞は、後に続く表現の終結語尾と語尾の‘一致’を成すことができるくらいに語尾をおしなべて備えている。

(23 가)のように‘여’から形成され、近くにいる人に何かを与えながら使用する(23 라), 要求についてのためらいやはっきりしない態度を表す(23 마)も、聴者待遇法の語尾をおしなべて備えており、‘一致’であるという主張が可能くらいである。(23 가)の一部だけ例文として調べてみよう。

- (24) 가. [여봐], 조용히 하고 [ ]<sup>6)</sup> 가만히 앉아 [ ].  
 나. [여보게], 목소리가 [ ] 너무 크네 [ ]!  
 다. [여보세요], 도청장치가 [ ] 있으니 [ ] 일부러 [ ] 크게 [ ] 말 합시다 [ ].

(24)のように[ ]の感嘆詞によって聴者を呼べば、その聴者について、後に続く表現が使用されることが明らかになるが、その聴者と修飾関係を表しはしない。(24)のような例だけをもってして‘独立語’と終結語尾の一致を主張することは<sup>7)</sup>、一部の感嘆詞を対象としたものである。

以下の(25-26)は, (23 나, 다)の肯定したり否定する返答として感嘆詞が用いられた例文である。

(25) 가. 올해도 추석에 고향에 일찍 가십니까?

나. 오냐!/ 응!/ 네!/ 아니요!/ 아니!

다. [네], 갑니다./ \*간다.

라. [오냐], 간다./ \*갑니다.

(26) 가. 올해도 추석에 고향에 일찍 가십니까?

나. [아니요], 고향에 [안/못 가]입니다./ [안/못] \*간다.

다. [아니], 고향에 [안/못 가]니다./ [안/못] \*갑니다.

(25 나)において, ‘오냐(おう)’, ‘응(うん)’, ‘네(はい)’, ‘아니요(いいえ)’, ‘아니(いや)’は, 表現を締めくくる符号があり, 後に続く表現がないので, 修飾対象を後に続く表現において探ることができない. 質問についての肯定や否定である返答の内容を文章の範囲を抜け出した(25 가)の質問, すなわち談話において探さなくてはならない. (25 나)のように提示した例は, 感嘆詞が独立語として用いられた場合である. “!” 符号によって独立した表現である.

問題は(25 다, 라)において‘네’, ‘오냐’の範疇である. コンマがあるので表現が終わったわけではない. 後に続く表現があり, ‘네’, ‘오냐’が後ろの‘가’を修飾するようにも見える. 動詞句を修飾するのならば副詞であるとすることもできるが, ‘네’, ‘오냐’は他の品詞と通用されるわけではなく, 固有な感嘆詞としてのみ分類される.

(26 나)の‘아니요’は, 形容詞‘아니’に語尾‘-오’が統合した形態と類似しているが, 主語が見えず, また主語を仮定することも簡単でなく, 叙述語であるとすることもできない. (26 나, 다)の‘아니요’, ‘아니’が後ろの‘안/못 가’を修飾するようにも見えるが, 対象がこのような動詞句であれば副詞であるとすることもできる. (25-26)の‘네’, ‘오냐’, ‘아니요’, ‘아니’は, これらが肯定したり否定する内容が談話において(25-26 가)の質問であるが, 問題は後ろに関係を結ぶ対象があるのか, あるとすれば動詞句なのか動詞句に統合した語尾なのか曖昧模糊である.

(25 다)において‘네’と上称形の‘-입니다’は自然であるが, 下称形の‘-니다’はおかしく, (25 라)において‘오냐’と下称形の‘-니다’は自然であるが, 上称形の‘-입니다’はおかしい. これらが語尾句まで関係を結ぶとすれば, この語尾句において語尾は談話の聴者のためのものであるので, 談話と関係を結ぶとすることもできる. (25 다, 라)の‘네’, ‘오냐’は, 返答の中で肯定を表すものであり, 名詞, 動詞, 副詞とは直接関係を見せないながらも, 聴者待遇法によって選択される. ‘네’, ‘오냐’と語尾の関係は一致なのか修飾なのか.

(26 나, 다)の‘아니요’, ‘아니’と‘안/못’の関係は修飾なのか呼応なのか.(26 나, 다)の‘\*간다.’と‘\*갑니다.’がおかしい理由は何なのか.

(25-26)において, ‘네’, ‘오냐’, ‘아니요’, ‘아니’は, 後に続く表現がなければ, 質問である談話において肯定したり否定する内容を確認しなければならないので, 談話のための単語である. しかし, 後に続く表現があれば, 質問についての返答を具体化しつつ統辞論的な制約を表しており, 動詞句や語尾句まで修飾するものと見えもするので, 副詞だという判断をすることもできる. なぜ(25-26)の‘네’, ‘오냐’, ‘아니요’は感嘆詞としてだけ分類し, 副詞としては分類しないのか.

(24-26)のように, 一部の呼びかけ語や返答に用いられる感嘆詞は, ‘-습-’や‘-으이-’と関係を表すが, ‘統辞論的修飾’ではなく一致現象である可能性を見せる. (24-26)は, 語尾と感嘆詞が共有する意味資質が簡単に発見されるということを見せてくれる. 特に, ‘였-’, ‘여보-’などに語尾が統合し語彙化した感嘆詞は, 後に続く表現の終結語尾と形式の‘一致’まで見せるが, 統辞論的關係を結びはしない. 感嘆詞‘아서(やめろ)’, ‘아서라(やめろ)’を形成した語尾も, 後に続く表現の語尾と‘一致’をみせる. 徐泰龍(1999:23-42)において, 談話と‘呼応’するものとして, 曖昧模糊に記述した感嘆詞が, ‘一致’として記述される可能性がある.

- (27) 가. [네], 올해도 [ ] 추석에 [ ] 일찍 갑니다 [ ].  
나. [아니요], 고향에 [ ] [안/못 가]버니다 [ ].

(27)は質問についての返答として用いられる意志感嘆詞であり, (25-27)において‘네’, ‘아니요’が可能な位置を確認してみたものであるが, 前や後ろの表現に用いられた語尾とも関係を結んでいる. 感嘆詞は統辞論的な制約を受けず, (25 나)のように独立語の機能を見せ, 前の(24)や(27)のように位置に制約がなしに談話のための機能を見せることができる.

韓国語において, ‘一致’は直接修飾対象を修飾しない場合に使用されてきた. すなわち, 統辞論的修飾関係にはない2つの要素が意味資質を共有する場合である. 統辞論的修飾関係が明らかに場合に, 強いて‘呼応’や‘一致’として記述する必要がない.

ただし, 語尾と感嘆詞の‘一致’を<sup>8)</sup>記述するために, 簡単に確認される[話者], [聴者], [話者謙讓], [聴者尊待]などを, 共有する意味資質として認定することができるのか, さらに具体的な意味資質を探さなくてはならないのか, 語尾の統合によって形成された感嘆詞を対象として語尾の一致を論議することは, 同語反復である可能性が高い. 談話次元の‘一致’の論議が可能であり必要なことなのか, などの問題が残っており, 感嘆詞と関連した具体的な一致の論議は後日へと持ち越す.

感嘆詞は独立語の機能を見せ, 語尾と関連がない感嘆詞の使用も可能であるので, 感嘆詞全部の共通点を確認する必要がある. 感嘆詞は共通して談話次元の修飾機能を持つものと見られる. ‘統辞論的修飾’とは異なった次元の記述の方案を模索しなければならないだろうが, 感嘆詞はそれと関連がある前や後ろの談話内容と範囲を狭め限定する.



### 3.2. 感嘆詞の談話修飾

副詞と感嘆詞の違いをはっきりさせるために、副詞として認定されることがなく、感嘆詞としてだけ分類される例を、感情感嘆詞、意志感嘆詞、形式感嘆詞に分けて調べてみよう。

- (28) 가. [아야], 발을 [ ] 다쳐서 [ ] 못 걸겠어/걸겠어요 [ ].  
나. [어머], 붕어가 [ ] 정말 [ ] 큰데 [ ] 발보다 크겠어/크겠어요 [ ].  
다. [[얼씨구], [날씨가 아주 좋]구나] [ ].  
라. [아, [비가 오]는구나].
- (29) 가. [쉬], 조용히 하고 [ ] 가만히 앉아 [ ].  
나. [셋], 목소리가 [ ] 너무 크네 [ ]!  
다. [쉬/셋], 도청장치가 [ ] 있으니 [ ] 일부러 [ ] 크게 [ ] 말합시다 [ ].

(28)は、話者の痛みや驚き、喜びなどを表す感情形容詞が用いられた例である。(28 라)は、최웅환 Choe Unghwan チウエ・ウンファン(2015: 243-244)において感嘆詞が語尾句を修飾する構造として提示したものである。感嘆詞が語尾句を修飾する構造であるわけだが、副詞が語尾句を修飾する場合と違いがない。しかし、(28 라)の構造は、感嘆詞の位置が文頭に固定されているとすれば可能であるが、感嘆詞の位置は文頭に固定されているわけではなく、(28 가, 나, 다)のように、[ ]の位置がすべて可能である。副詞と違って、位置が違うからといって、修飾範囲が違うように変わらない。

(29)は、聴者に‘声を出すなという’意志感嘆詞が用いられた例である。これらは、他の品詞から語彙化したものではないので、固有の感嘆詞として分類するが、独立語の機能だけを見せはしない。人の口から出る声ではあるが、‘카(ぐうっ)’, ‘켜(ぐうっ)’, ‘쓏쓏(ちえっちえっ)’のように、‘쉬(しっ)’, ‘셋(しっ)’は文節音とは相当に異なった声を出す場合もあるという点において、なぜこれらは副詞として認定しないのか、調べてみる必要がある。(29 가)の‘쉬’は‘조용히 하-’を修飾するよう見えはするが、‘조용히 하-’がなくても、その意味を十分に表す。(29 다)がぎこちないが可能である理由を確認する必要がある。‘쉬’, ‘셋’が静かにすることを要求するが、状況によって後ろにその反対の表現も可能なくらいに、後に続く表現と統辞論的な関係を結ばない。

(28-29)において、感嘆詞の位置が表現の前に固定されているのだとすれば、一部の感嘆詞は、後ろにある語尾句を修飾するものとして記述することが可能である。感嘆詞の位置は表現の前に固定されているわけではない。感嘆詞の位置が表現の後ろである場合には、語尾句を修飾する構造として記述することができなくなる。その上、(30)のように語尾と直接関係がない形式感嘆詞‘지(あのう)’, ‘예(ええと)’を統辞構造に表示することはできない。

- (30) 가. [저], 혹시 [ ] 아침에 [ ] 전화하셨던 분 [ ] 아니세요 [ ]? 《標準》

나. [ ] 사실은 [에], 자네에게 [ ] 좀 미안한 부탁이 [ ] 있어서 왔네[ ]. 《標準》

感嘆詞として分類される例は, (27-30)のように文章の後ろまで多様に [ ] の位置に用いられうるが, 位置によって後ろにある特定の成分を修飾しはしない.

- (31) 가. [[[아버지 오]시]어도] \*아무리.  
나. [[[아버지 오]시]더라도] \*설령.  
(32) 가. [[[아버지 오]시]어요.] 여보세요.  
나. [[책 좀 읽]자.] 췌.

副詞の位置は, (31)のように語尾句の後ろに来れば, 不可能であったりぎこちなくなるが, 感嘆詞の位置は(32)のように語尾句の後ろに来て自然である. 感嘆詞は位置に制約がなく, 談話の前, 中間, 後ろにすべて用いられうる. 副詞は修飾する言葉の前に置かれる.

(23-30)において感嘆詞の3つの種類を例示したのは, 感嘆詞が談話の次元において一致関係を見せる可能性があるくらいに, 前や後ろの表現から独立した存在ではないということを見せるためなのである. 感嘆詞は‘談話のための単語’(徐泰龍 1999: 23-42)を具体化するために, さて感嘆詞と談話の関係を調べてみよう. 感嘆詞は談話において独立した要素であるわけにはいかない. 感嘆詞は談話内容を豊富に拡張する一方で, 感嘆詞が使用されれば談話内容はその意味範囲が縮小される. 感嘆詞は談話を修飾するものである. 感嘆詞の修飾機能は, その対象が談話であるので, 統辞論的修飾とは範囲と次元が異なる. 統辞論的修飾であれ談話修飾であれ, いずれもが修飾対象の内包を拡張し, 外延を縮小する意味機能を見せる.

以下は, 感嘆詞の種類にしたがった談話修飾機能を整理したものである.

### (33) 感情感嘆詞の談話修飾機能

- 가. 話者の驚き, 喜び, 憤怒, 悲しみ, 楽しみなどの感情を, 平凡な文章よりも, 感嘆詞は単語1つで直接表すことができる. 感嘆詞とともに平凡な表現が前や後ろの談話にあれば, 話者の感情はより確実に効果的に表現される.  
나. 感嘆詞が表す意味によって, 前や後ろの談話表現は, 驚き, 喜び, 憤怒, 悲しみ, 楽しみなどの感情のうちで, 1つの感情を表すものとして, その意味範囲が縮小される.

### (34) 意志感嘆詞の談話修飾機能

- 가. ①‘여보’などや‘있다’などの感嘆詞は, 談話の聴者を細分し使用されるので, 話者が聴者を聴者待遇法の等級のなかでどの程度高めているのかわかる.

② ‘네’, ‘아니요’, ‘글쎄요’などの返答に用いられる感嘆詞は, 平凡な文章のかわりに, 肯定, 否定, ためらいなどを1つの単語によって表すことができる. 前や後ろの談話表現によって質問についての返答内容を反復すれば, より確実に返答内容を伝達することができる.

③ ‘쉬’, ‘씻’, ‘자’, ‘아서’などの感嘆詞は, 平凡な文章のかわりに, 要求する聴者の行動や関心を1つの単語によって直接表すことができる. 前や後ろの談話表現によって聴者に要求する内容を反復すれば, より確実に要求する内容を伝達することができる.

나. ① 前や後ろの談話表現の終結語尾と聴者についての尊敬の程度において ‘一致’を見せなければならぬくらいに, 感嘆詞によって後に続く表現の範囲は制限される.

② 前や後ろの談話表現は, 感嘆詞の意味と関連がある内容として, その意味範囲が縮小される.

### (35) 形式感嘆詞の談話修飾機能

가. 前や後ろの談話表現についての話者のためらい, 時間稼ぎなどを表す.

나. これが入っている表現は, 話者のためらい, 時間稼ぎと聴者の待機を要求する場合として, その意味範囲が縮小される.

(36) 가. 쌍(くそ), 네미(ばかたれ), 재미(こんちくしょう), 전장(えいくそ), 넌장(ちくしょう)

나. 에이끼(やい), 예기(え이), 예끼(こら)

(37) 가. 이제 가을이 간다. [아아], 단풍이 곱다./ [아아], 낙엽이 슬프다./

나. 이제 가을이 간다. [아이고], 단풍이 곱다./ [아이고], 낙엽이 슬프다./

談話のための単語である感嘆詞が, (33-35 가)は談話の内容を拡張する内容であり, (33-35 나)は談話の外延を縮小する内容である. (36 가)は悪態として用いられる感嘆詞であり, (36 나)は叱ったり腹が立った時に目下の人用いられる感嘆詞である. (36)は感情感嘆詞と意志感嘆詞の性格をとともに見せるものである. (36)が用いられた談話は, これらによって話者の態度を明らかに知ることができ, 制約を受けるしかない. (37)はさまざまな種類の感情を表すことができる感情感嘆詞が用いられた場合であるが, その感情はさらに拡張されるが, 談話は感情表現と関連がある内容としてその範囲が縮小される.

副詞は, 位置によって修飾対象や範囲を異にすることができるが, その基本的な機能は ‘統辞論的修飾’ である. 副詞の ‘統辞論的修飾’ は, その対象が後に続く動詞句や語尾句の中にあり, 修飾語と修飾対象の関係を明らかに把握することができる. しかし, 感嘆詞は, 関係を結ぶ対象が後に続く動詞句や語尾の中にはないので, 統辞論的な関係を表さず, 談話と関係を結ぶ.

感嘆詞によって談話の範囲が狭まり限定されるので、感嘆詞の基本的な機能は‘談話修飾’である。副詞は言葉で表現された名詞句、動詞句、修飾詞句、語尾句などの意味範囲を狭めて限定する‘統辞論的修飾’を行う品詞である。感嘆詞は独立語として用いられることができ、1つの単語によって話者の心理と感情を表し、聴者の行動と関心を要求することができる。感嘆詞は一部が語尾と関係を見せはするが、前や後ろの談話表現の範囲と狭めて限定するので、‘談話修飾’を行う品詞として区別することができる。

#### 4. 結論

1. 副詞は修飾する語彙であり、修飾対象は、動詞が核である動詞句、冠形詞や副詞が核である修飾詞句、名詞が核である名詞句、語尾が核である語尾句である。‘아무리’, ‘부디’, ‘제발’などの副詞は、動詞句を抜け出した語尾句とも関係を結ぶが、語尾と一致するだとか呼応するだとかいう記述よりは、語尾句を修飾するという記述が、副詞を一貫性をもって記述する方法である。副詞は後に続く表現に修飾対象が明示されていなければ、独立語の機能を見せはするが、潜在的な修飾対象がある語彙である。一般的に修飾対象の前に位置し、位置にしたがって修飾対象や修飾範囲を異にすることができる。統辞論的構成において被修飾語の意味範囲を狭めて限定する‘統辞論的修飾’の機能を表す。

2. 感嘆詞は談話を修飾する語彙であり、修飾対象は、後に続く動詞句や語尾句の範囲を抜け出す。修飾対象は、動詞句や語尾句を抜け出した談話、すなわち、話者や聴者、発話行為、前や後ろの別の表現において探することができる。談話のために後に続く表現と統辞論的関係を結びもするが、基本的に後に続く表現と統辞論的関係がない。感嘆詞は、それが入っている表現の別の成分と統辞論的関係を結ばないので、位置に制約がない。談話要素の範囲を狭めて限定する‘談話修飾’の機能を表す。

3. 副詞と感嘆詞は語尾と関係を見せる場合がある。‘아무리’, ‘부디’, ‘제발’などの副詞と語尾の関係を調べてみると、副詞が語尾句の意味範囲を狭めたり限定する修飾機能を見せる。副詞が後に続く表現の語尾句と統辞論的関係を表すので、副詞と語尾句の関係は‘統辞論的修飾’である。副詞は被修飾語について‘統辞論的修飾’機能を表すものとして一貫性をもって記述することができる。副詞の意味機能は、基本的に修飾対象である動詞句や語尾句などの内包を具体化して拡張しつつ、動詞句や語尾句などの外延を狭めて限定する‘統辞論的修飾’である。

‘여보’, ‘예’, ‘아니요’などの感嘆詞は前や後ろの談話表現の語尾との‘一致’として記述される可能性があるが、‘아야’, ‘어머’, ‘얼씨구’などの感情感嘆詞や‘쉬’, ‘Feat’などの意志感嘆詞は‘一致’として記述するのが難しい。感嘆詞としてだけ分類される例は、統辞論的構成を修飾する機能をともしせもするが、談話をはっきりとするためのものである。感嘆詞

の意味機能は基本的に談話表現の内包を具体化して拡張しつつ、談話表現の外延を狭めて限定する‘談話修飾’である。

副詞と感嘆詞を区別することができる違いは、その位置に違いを見せるということである。副詞は位置によって修飾対象や範囲が異なるが、感嘆詞は独立語として用いられることができ、修飾対象の前、中間、後ろなど、その位置に制約がなく、位置によって修飾対象や範囲が異なることがない。

膠着語尾が統合することができず、位置によった修飾対象と修飾範囲の違いだけによって区別してきた冠形詞、副詞、感嘆詞を区別せずに、すべて修飾詞として設定することが、文章や談話を超えて韓国語文法の記述を簡単で簡潔にする方案になるであろう。統辞構造において随意的な要素として、それが入っている表現の文法性に影響を及ぼさず削除されるという共通点を見せる。徐泰龍(2000: 269)において、冠形詞、副詞、感嘆詞をまとめて、基本範疇の修飾詞(Adjunct)を設定した理由である。

本稿においては、副詞と感嘆詞の相互修飾可能性を検討できなかった。副詞は感嘆詞を修飾することが難しく、感嘆詞が副詞を修飾することが難しいものと見られる。副詞の統辞論的修飾機能と感嘆詞の談話修飾機能のためであろう。相互修飾可能性のいかんは、2つの品詞の違いをさらにはっきりと確認することができる基準になりうるかもしれない。

本稿が、韓国語の現象に基礎を置いた、呼応、一致、修飾についての論議のための踏み台になることを期待する。

#### 【原注】

- 1) 品詞分類の基準として‘統辞論的修飾’については徐泰龍(2016: 7-9, 20-28)参照。
- 2) 金京勳(1996: 48-59)において‘副詞語’の修飾範囲として“先語末語尾句”，“語末語尾句”が提示されたが、これらは語尾が核である徐泰龍(2000: 273-282)の語尾句(EP)である。金京勳(1996: 60-72)と김경훈(1997: 159-178)においては、副詞と語尾は直接姉妹関係にはないので、‘修飾’ではなく‘浸透’という過程を通じた‘呼応’であるという主張をした。임유중(1999: 72-98)の“直接呼応副詞”，채희락(2004: 184-200)の“呼応副詞語”も、副詞が動詞句の範囲を抜け出し主に連結語尾と関係を見せるものである。신서인(2011: 217-218)の文章副詞目録にも、‘만약’, ‘설령’, ‘아무리’, ‘비록’など、語尾と関係を見せるものが入っている。
- 3) ‘다행히’は文章全体、すなわち語尾句を修飾する文章副詞であり、位置にしたがって‘다행히’の前に移動した要素は主題化されたものであれば(신서인 2011: 215-225, 229-237), 結局‘다행히’は統辞論的修飾をする要素として、修飾対象である語尾句の範囲は変わりうる。
- 4) 本稿に引用する辞典は、以下のように省略して表示する。品詞名称が異なる《朝鮮》, 《ハングル》の場合も、規範文法通りにすべて統一して提示する。



국립국어원(1999/2016) ⇒ 《標準》

사회과학원 언어연구소 편(1992/2007) ⇒ 《朝鮮》

한글학회 지음(1992) ⇒ 《한글》

운평연구소 편(1991/1996) ⇒ 《金星》

연세대학교 언어정보개발연구원 편(1998/2000) ⇒ 《延世》

고려대 민족문화연구원(2009) ⇒ 《高麗》

- 5) 《標準》의 “『言語』前になんらかの言葉が来ると、そこに応じる言葉が従って来ること。またはそのようなこと。”という程度の‘呼応’であると言うことはできる。
- 6) [ ]表示は例文の感嘆詞が用いられる位置を表示したものである。徐泰龍(1999: 31-43)において副詞と感嘆詞の位置によった違いを論議せず、位置の制約がない例を提示したが、位置によって修飾対象と範囲の違いを見せるものは副詞であり、違いを見せないものは感嘆詞である。
- 7) 김태엽 Gim Taeyeob 김·테오프(1996: 91-94)において独立語の中で一部呼称語として用いられる感嘆詞と聴者待遇法による終結語尾を‘一致関係’として記述したが、独立語全部や感嘆詞全部に適用した論議ではなく、聴者待遇法による終結語尾は談話の聴者のためのものであるので、統辞論的な‘一致関係’であるとするのは難しい。談話資料を対象として、呼称語と指称語が聴者待遇法の語尾と必ずしも呼応せず、話者の意図によって調節することができる独立性があるという論議があるが(유송영 Yu Song'yeong 유·송영 1998: 193-199), ‘調節’をしなければならないくらいの影響はあり、聴者待遇法の語尾が付いて形成された感嘆詞を呼称語と同じものと見るのは難しい。
- 8) 印欧語においては統辞論のための一致であるが、韓国語においては談話のための一致が必要である可能性が高い。韓国語の‘-으시-’についての一致は、談話の主題のためのものである可能性が高いからである。そうだとすれば、談話のための単語、すなわち感嘆詞全部を対象として一致を検討する必要がある。

(浜之上幸訳)

#### 【参考文献】

- 金京勳(1996), 現代國語 副詞語 研究, 서울 大學校 大學院 博士學位論文.
- 김경훈(1997), 修飾과 呼應-副詞語의 呼應 現象을 중심으로-, 《국어교육》 93 권, 한국어교육학회, 157-184.
- 김선효(2005), 문장부사 설정에 대한 재고, 《언어와 정보사회》 6, 36-54.
- 김태엽(1996), 국어 독립어의 문법성, 《언어학》 제 18 호, 한국언어학회, 77-100.
- 서정목(1987), 《국어 의문문 연구》, 탑출판사. 1-437.
- 徐泰龍(1999), 국어 감탄사의 담화 기능과 범주, 《東岳語文論集》 第三十五輯, 東岳語文學會, 21-49.
- 徐泰龍(2000), 국어 형태론에 기초한 통사론을 위하여, 《國語學》 35, 國語學會, 252-285.
- 徐泰龍(2006), 국어 조사와 어미의 관련성, 《國語學》 47, 國語學會, 65-89.

- 徐泰龍(2016), 품사 분류 기준의 우선순위와 감탄사 통용, 《國語學》 80, 國語學會, 3-34.
- 신서인(2011), 문장부사의 위치에 대한 고찰, 《國語學》 61, 國語學會, 207-238.
- 신서인(2014), 담화 구성 요소를 고려한 문장부사 하위분류, 《한국어 의미학》 44, 한국어의미학회, 89-118.
- 유동석(1994), 한국어의 일치, 《생성문법연구》 제 4 권 제 2 호, 한국언어학회 생성문법연구회, 211-247.
- 유송영(1998), 국어 호칭·지칭어와 청자 대우 어미의 독립성, -담화 상황과 관련된 내용을 중심으로-, 《國語學》 32, 國語學會, 171-200.
- 임유종(1999), 《한국어 부사 연구》, 한국문화사.
- 채희락(2004), 호응 부사어 구문 분석 -하향 무한 이접성과 인텍스 구구조문법, 《언어학》 제 38 호, 한국언어학회, 183-225.
- 최응환(2015), 국어 감탄사와 품사분류 준거, 《국어교육연구》 57, 국어교육학회, 223-250.

〈辭典類〉

- 고려대 민족문화연구원(2009), 《한국어대사전》, 고려대학교 민족문화연구원 국어사전편찬실.
- 국립국어원(1999/2016), 《표준국어대사전》, 웹사이트.
- 사회과학원 언어연구소 편(1992/2007), 《조선말대사전(증보판)》, 사회과학원출판사.
- 연세대학교 언어정보개발연구원 편(1998/2000), 《연세한국어사전》, 두산동아.
- 운평연구소 편(1991/1996), 《국어대사전(제 2 판)》, 금성출판사.
- 한글학회 지음(1992), 《우리말큰사전》, 어문각.